

## 地域包括医療実習Ⅱ

科目責任者：橋本 充代（教育開発・国際交流センター 地域医療教育部門）

### I. 前 文

地域医療の実際の現場では、疾患の治療だけでなく予防活動にも重点がおかれ、多職種連携のチームワークが要である。将来地域医療を担っていく医学部生には、早い時期から地域におけるプライマリヘルスケア（primary health care）を体験し、医療・保健・福祉・介護の活動の連携やそのネットワーク状況などを学ぶことが望まれる。地域包括医療実習Ⅱは、第2学年を対象に訪問看護ステーションの現状と訪問看護・在宅療養の実際を学習することを目的とする。2040年に向けて高齢者人口がさらに増加することから、地域完結型の医療提供体制の構築のために、地域包括ケアシステムにおける在宅医療の重要性を学び、患者中心の医療を実践できるようにすることが大切である。なお、本実習は自由選択科目であるが、地域枠入学者は本実習の履修は必須である。

### II. 受入可能人数

地域枠学生・地域医療に興味を持つ学生の場合、人数は制限しない。

### III. 担当教員

教授	山内 かづ代	（医学教育学）
准教授	橋本 充代	（教育開発・国際交流センター 地域医療教育部門）
講師	金子 堅太郎	（教育開発・国際交流センター 地域医療教育部門）
講師	森田 圭子	（地域共生協創センター）
学外講師	種市 ひろみ	（順天堂大学 医療看護学部・大学院医療看護学研究科 教授）
	中澤 征人	（栃木県立リハビリテーションセンター 医師）
学外指導者	栃木県看護協会	とちぎ訪問看護ステーションみぶ 職員
	済生会宇都宮病院	訪問看護ステーションほっと 職員
	石橋総合病院	訪問看護ステーション石橋 職員
	とちぎメディカルセンター	訪問看護ステーション 職員
	医療法人アスミス	わくわく訪問看護ステーションおやま 職員
	(株)コミュニティー研究所	訪問看護ステーションオリーブ 職員

### IV. 学習内容

回数	月	日	曜日	時限	内 容	担当者	形 式
1	5	11	月	4-5	全体オリエンテーション 講義「訪問看護と保険について」	橋本 充代 地域医療教育部門教員	講義
2	5	27	水	3	レポートの書き方、事前レポート作成	橋本 充代	演習
3	6	23	火	2	講義「訪問看護ステーションについて」	とちぎ訪問看護 ステーションみぶ所長 草部 志保	講義
4	7	16	木	終日	マナー・接遇ロールプレイ バイタルサイン測定実習 実習直前オリエンテーション	橋本 充代 山内 かづ代 種市 ひろみ 森田 圭子	演習 グループ ワーク
5	7-8			終日	訪問看護同行実習（3日間）	各訪問看護ステーション職員	実習
6	8	19	水	4-5	実習報告会準備	地域医療教育部門教員	グループ ワーク

回数	月	日	曜日	時限	内 容	担当者	形 式
7	8	26	水	5-7	実習報告会	地域医療教育部門教員	プレゼンテーション
8	8	31	月	6-7	講義「臨床宗教師」	中 澤 征 人	グループワーク
9	11	7	土	1-3	地域包括医療セミナー（1～4年合同）	地域医療教育部門教員	グループワーク

実習日程は主に4～7時限、土曜、夏休みに予定されている。日程は変更や追加がある場合、その都度Moodleで連絡を入れるので、常時受け取れるようにしておく。

日頃から地域医療に関心を持ち、積極的に独力で学ぶことも大切である。訪問看護同行実習前には自分自身の目標を明確にして、事前レポートを作成し実習先に提出する。実習期間は7月中旬～8月上旬の間の3日間、時間は8：00～17：00（施設によって異なる）である。

上記以外の各自治体のキャリア形成卒前支援プランに基づくイベントには、原則参加とする。

## V. 学修の到達目標

- 1) 訪問看護の機能と役割を説明できる。
- 2) 訪問看護の現状、利用者の疾患や療養環境等について学び、説明できる。
- 3) 医療保険、介護保険制度について知る。
- 4) 在宅医療における医師の役割を学び、将来のキャリアの1つとして考察できる。
- 5) 在宅医療を取り巻くネットワークや多職種間連携について説明できる。
- 6) アドバンス・ケア・プランニング（ACP）について理解する。
- 7) 脈拍、血圧などのバイタルサインを測ることができる。

## VI. 成績評価の方法・基準

事前レポート（5%）、各訪問看護ステーション指導者による実習中の評価（45%）、実習記録（5%）、事後レポート（40%）、および実習報告会（5%）等から総合的に判断する。及第点（60点）未満の学生は再実習を行う。また、本カリキュラム以外に地域医療に積極的に関心を持ち、自らすすんで実習を行った場合、自己申告することにより評価に反映される。

## VII. 使用する教材・資料など

・地域包括医療実習Ⅱテキスト

その他、必要に応じてその都度紹介する。

参考図書：「自分らしく生ききるために 進行がんの患者さんを支える」 渡辺邦彦 文芸社

「在宅看護論 地域医療を支えるケア」メディカ出版

「格差時代の医療と社会的処方 病院の入り口に立てない人々を支えるSDH（健康の社会的決定要因）の視点」  
武田裕子 日本看護協会出版

## VIII. 質問への対応方法

科目責任者：橋本充代（commed@dokkyomed.ac.jp／直通 0282-87-2072／内線2111）が窓口になり対応する。来室は、原則として平日のオフィスアワー（12：20～17：00）とする。

## IX. 求められる事前学習、事後学習及びそれに必要な時間

事前学習：各回の前に、LMSで配信する予習用資料、テキストの該当部分を読んでくること（30分）。

事後学習：実習内容を振り返り、不明な点などを調べておくこと（30分）。

X. コアカリ記号・番号

- PR-02： 思いやり
- GE-02： 地域の視点とアプローチ
- CM-01： 患者に接する言葉遣い・態度・身だしなみ・配慮
- IP-01-01： 患者中心の保健医療福祉
- IP-01-02： 職種間コミュニケーション
- SO-01-02： 社会保険、公的扶助、社会福祉

XI. 課題（試験やレポート）に対するフィードバックの方法

学外実習中の実習態度等の評価表、実習記録、添削された事前および事後レポートを返却する。

XII. 卒業認定・学位授与の方針と該当授業科目の関連

\*◎：最も重点を置く DP ○：重点を置く DP

ディプロマ・ポリシー（卒業認定・学位授与の方針）	
<b>医師としてのプロフェッショナリズム</b> 幅広い教養，利他の精神，医師に求められる品格を身につけ，豊かな人間性を育み，他の医療者と協調して，多様な価値観を尊重する全人的な医療を実践できる	◎
<b>能動的学修能力</b> 医学知識・技能を主体的に学び，情報・科学技術を活用して，生涯にわたって自ら問題を発見し，解決することができる	○
<b>地域医療の理解</b> 地域社会における医療の役割と，その中核を担う意味を理解できる	◎
<b>国際性</b> 国際社会における医学・医療の動向や課題を理解し，課題解決に向けて行動することができる	
<b>リサーチマインド</b> 研究活動における積極的な創造・発信に挑み，医学・医療の進歩に貢献することができる	